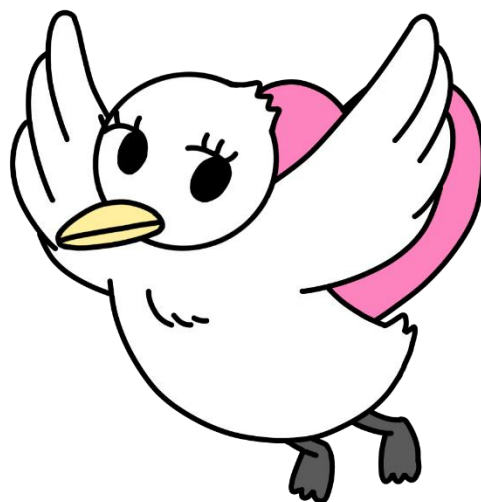


# 福祉教育出前講座 ハンドブック

～ともに育てる地域 ともに育つ仲間～



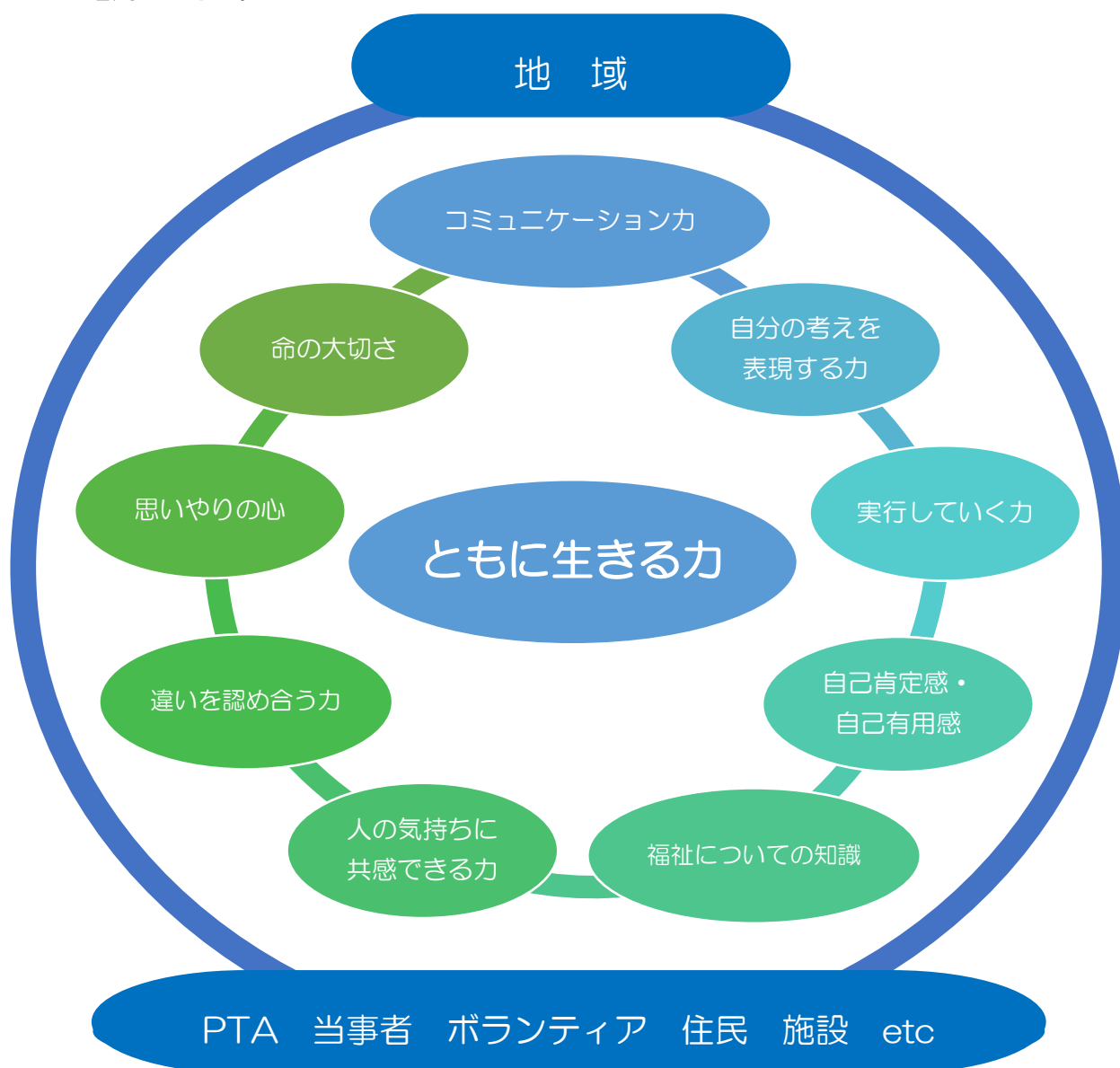
瑞浪市社協キャラクター 「トッキー」

社会福祉法人 瑞浪市社会福祉協議会

## ◆はじめに

瑞浪市社会福祉協議会（以下、社協）は、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体です。社協では、福祉（ふくし）を「**⑤だんの④らしの③あわせ**」というメッセージにして伝えており、「社会のすべての人が、自分らしく、安心して、安定した生活を営むこと」を目指しています。自分たちの地域を暮らしやすくするためには、地域に住んでいる人たちを知り、交流する中で様々な人々の違いや、暮らしやすさ、暮らしにくさに気づき、子どもも大人も一緒に地域の福祉課題解決に向けて自ら行動することが必要であり、その第1歩として「学び・気づき」を得ることが福祉教育の目的になります。

地域全体で子どもたちの「ともに生きる力」を育むために、このハンドブックや社協をご活用ください。



## ◆目指すは福祉教育から福祉共育（ともいく）へ

### ○福祉共育（ともいく）って？

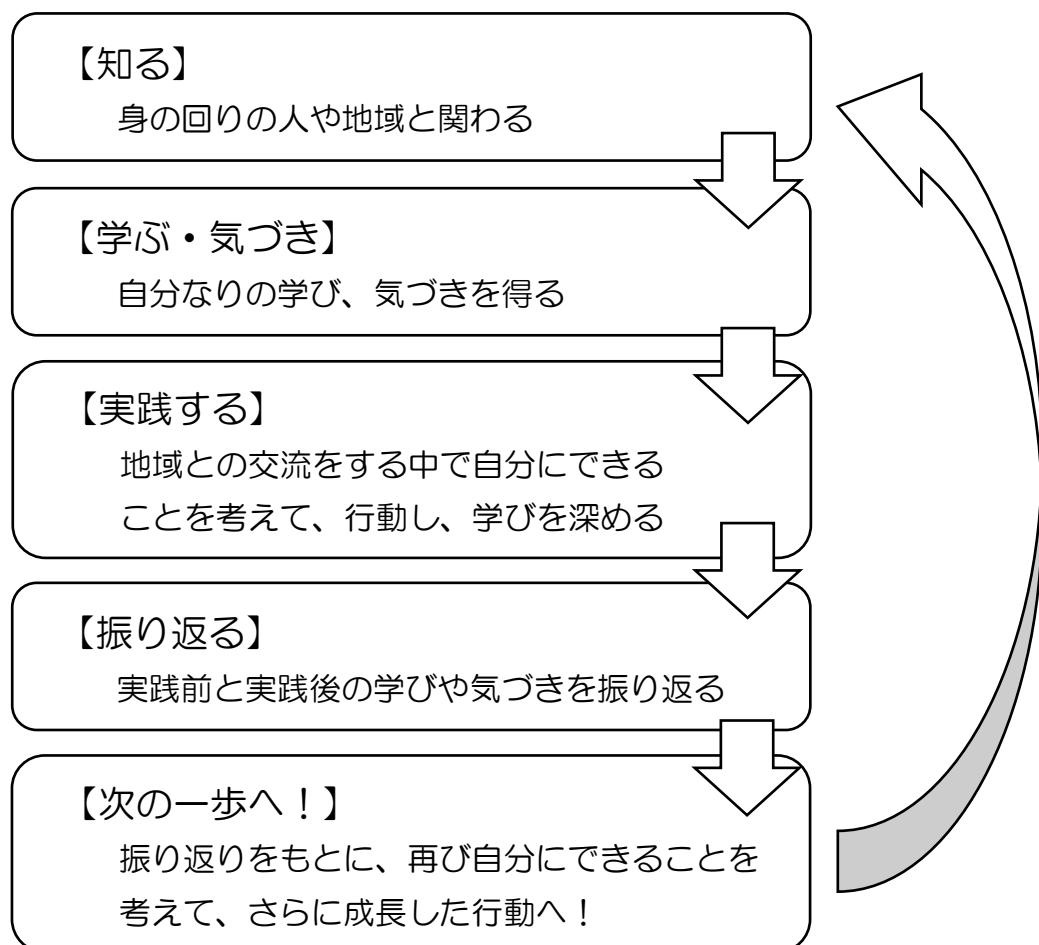
福祉共育は大人と子どもが「教える側」「教えられる側」という一方的な関係ではなく、地域の大人も子どもも共に地域について考える機会をつくる取り組みです。子どもが地域活動に参加することで、大人自身も新たな視点で地域の課題に気づき、地域全体で『みんなが笑顔になれる地域』を目指す方法そのものが、福祉共育です。

### ○地域の中にある学びの場

今の子どもたちは、地域の人と関わる機会そのものが少なくなっています。身近な地域に暮らす障がいのある人や高齢者を含めた様々な人々と関わることを通して、新たな「学び・気づき」が得られ、誰もが安心して住みやすい地域について考えるきっかけになります。

### ○ポイントは共（とも）に！

- ・共に学ぶ・・・地域の皆さんと子どもたちが共に学ぶ機会を
- ・共に育つ・・・地域課題を自分事として捉え、みんなが考え、取り組む機会を
- ・共に支え合う・・・一人ひとりが主体となり、誰もが安心して暮らせる地域へ



◆福祉共育を進めるために大切にしたいこと

○「学び・気づき」について

様々な人々の 「ちがい」を 理解して	①地域に住んでいる人たちを知る
	②自らも地域の一員であることを知る
	③誰だって、できること・できないことがあることを知る
	④支援を必要とする人の生きる力（工夫や知恵）や姿勢を知る
	⑤生活のしづらは、どこに要因があるのか考える
	⑥誰がその「しづらさ」を手伝うことができるのか（手伝っているのか）を知る
	⑦自分に何ができるのか考える（自分にできることがあることを知る）
	⑧地域で互いに「共に生きる（支え合う）」ことの大切さを知る

福祉教育出前講座終了後、福祉共育を目指し、地域の中で共に生きるという学びを深め、地域づくりへの実践など次の行動へと結び付けていくためには、振り返りが大切になります。子ども達だけではなく、教員や協力者も次の視点で講座内容や活動などを振り返ってみましょう。ぜひ、その振り返りに社協職員を呼んでください！

○振り返りのポイント

子ども
①どのような学びや気づきがあったのか ②疑問に残ったことはあるのか ③今後、自分で取り組めることは何なのか

教員・協力者
①子どもが何を気づき、どのように成長したのか ②ねらい・目的は達成できたのか ③講座内容は適切であったのか ④子どもたちの反応はどうであったか ⑤実践を通して何に気づき、（子ども達から）何を学んだのか ⑥今後に向けた課題や目標はあるのか ⑦どのように次の行動へ繋げていくのか

（全国社会福祉協議会『ともに生きる力』、岐阜県社会福祉協議会『福祉共育実践の手引き』参照）

#### ◆福祉教育出前講座の流れ

①講座内容や開催のご希望を事前にお問い合わせください。

②詳細が決まりましたら、「福祉教育依頼書」の提出をお願いします。

- ・希望日は第3希望まで記入できます。
- ・講師調整等のため、原則として4週間以上の余裕をみて記入ください。

③開催日が決まりましたら、開催日の1～2週間前に打合せをします。

- ・荷物の搬入口等を確認のため、会場での打合せをお願いしています。

④当日、学びをサポートする社協職員やボランティアさんが会場にて出前講座を行います。

○福祉教育依頼書は瑞浪市社会福祉協議会のホームページからダウンロードできます。  
ホームページ (<https://m-shakyo.org/>) → 各種ダウンロード → 福祉協力校

いくつかの体験を合わせて出前講座を行うことも可能です。

【例】高齢者体験＋車いす体験、車いす体験＋視覚障がい者体験 など

また、会場に合わせて体験内容や方法も変更できますので、ご相談ください！

～申込にあたってのお願い～

- ・実施日時は平日9時30分以降とします。
- ・備品の数に限りがありますので、予めご了承ください。  
(事前に備品を借りたい等あればご相談ください。)
- ・活動の様子を撮影させていただきます。広報誌等に掲載することがありますので、撮影不可の児童・生徒がいる場合は事前にお知らせください。

## ◆福祉教育出前講座のプログラム紹介

### ○車いす体験

#### ・目的

車いすの使用目的や機能を理解し、利用する人に配慮する気持ちを育むとともに、自分たちに何ができるのかを学ぶ。また、体験することにより、車いす利用者は身近な存在であることを理解し、最終的には子ども達自身が地域のバリアフリーの取り組みについて考えることを目指す。

#### ・事前準備

社協：自走型車いす、介助型車いす、資料

学校：マット、カラーコーン、消毒セット（必要があれば）

#### ・当日の進行内容(目安)

時間	内容	備考
10分	・あいさつ ・車いすについての説明	
10分～20分	・車いす体験（介助）・・・1人5分程度	人数で体験時間が変わります。
10分～20分	・車いす体験（自走）・・・1人5分程度	//
10分	・まとめ	

#### 【学びのプラスα】

##### ・車いすコースの検討

→マットの上、段差、屋外（坂道、悪路等）

- ・自分でできる介助方法や環境整備について&車いす利用者の生活場面の気持ちを考えるワーク。



## ○高齢者疑似体験

- ・目的

加齢に伴う心身の変化を理解し、高齢者に配慮する気持ちを育むとともに、自分たちに何ができるのかを学ぶ。また、介助の仕方を学ぶ。（体験を踏まえて、高齢者の気持ちやバリアフリーについて考える）

- ・事前準備

社協：高齢者疑似体験セット、資料

学校：椅子（パイプ椅子も可）、長机か児童机、消毒セット（必要があれば）

- ・当日の進行内容（目安）

時間	内容	備考
10分	・あいさつ ・高齢者についての講義 ・疑似体験セット装着方法の説明	
20分～30分	・高齢者疑似体験・・・1人10分程度	人数で体験時間が変わります。
10分	・まとめ	

### 【学びのプラスα】

- ・体験内容：食事や買い物体験、新聞や教科書を読んでも、マットからの起き上がり体験、ペットボトルの開け閉め、水を汲んでみる体験等
- ・自分でできる介助方法や環境整備について&高齢者の生活場面の気持ちを考えるワーク。



## ○視覚障害者体験

### ・目的

視覚障害について学び、体験をすることにより、視覚に障がいのある人が外出する時等に困ることを具体的に知り、地域で出会った時の声かけや案内の方法等を学ぶ。

### ・事前準備

社協：視覚障害体験プレート、白杖、アイマスク、ゴーグル、資料

学校：ホワイトボード、カラーコーン、マット、消毒セット（必要があれば）

### ・当日の進行内容（目安）

時間	内容	備考
20分	・あいさつ    ・視覚障害についての説明	
10分～15分	・ゴーグルで見る体験・・・1人3分程度	人数で体験時間が変わります。
10分～15分	・アイマスクで歩く体験・・・1人3分程度	//
10分	・まとめ	

### 【学びのプラスα】

- ・机でアイマスク体験（手探りで物を取る体験、折紙を折る体験、お茶を飲む等）
- ・ガイドの仕方について（写真を見ながら、実際に歩いてみて等）





## ○手話体験 ボランティア団体『手話サークルあすなろ』が講師を担当

### ・目的

聴覚障害について学ぶとともに、手話を体験することで、聴覚に障がいのある人との意思疎通に必要なコミュニケーション方法等を学ぶ。

### ・事前準備

社協：配布資料（原本）

学校：配布資料（原本）をお渡しするので、必要数分の用意をお願いします。

### ・当日の進行内容（目安）

時間	内容	備考
10分	・あいさつ ・聴覚障害について説明	
30分	・コミュニケーション方法の紹介、体験 手話・指文字・筆談・口話・空文字や補聴器 （難聴者）について	
5分	・まとめ	

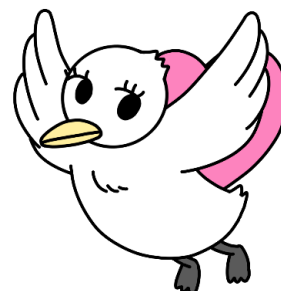
## ○点訳体験 ボランティア団体『てんやく瑞浪』が講師を担当

視覚に障がいのある人が触って読む文字「点字」について体験します。

## ○音訳体験 ボランティア団体『音訳ボランティアともしび会』が講師を担当

視覚に障がいのある人が本や広報紙を聞いて楽しめる、活字を読み録音する「音訳」について体験します。

気になる講座がありましたら、  
気軽にお問い合わせください！



◆その他講座などのご案内

・認知症サポーター養成講座

認知症サポーターは「なにか」特別なことをする人ではなく、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守る「応援者」です。市内の高齢福祉分野に携わる者が講師を務め、認知症への接し方のコツなどを含めた講座を行います。

（対 象 者）小学4年生以上

（実施時間）40～60分程度

【問い合わせ先】 瑞浪南部地域包括支援センター （電話）68-8111

（担当地区）瑞浪、稲津、陶地区

瑞浪北部地域包括支援センター （電話）63-1015

（担当地区）土岐、明世、釜戸、大湫、日吉地区

・手話サロン 【問い合わせ先】 瑞浪市社会福祉協議会

毎月第4土曜の10時～11時30分に市民福祉センターハートピア1階の多目的室にて開催しています。手話に興味がある方はどなたでも参加可能です。学んでみたい児童・生徒の皆さんへご案内ください。参加無料・予約不要・時間内の入退室自由です。

社会福祉法人 瑞浪市社会福祉協議会

〒509-6123 岐阜県瑞浪市樽上町 1-77

（市民福祉センターハートピア内）

T E L : 0572-68-4148

F A X : 0572-68-4173

e-mail : m-syakyo@ob2.aitai.ne.jp

令和7年5月発行